



かえでだより ラグビースクール

NO. 13

通巻 NO. 17
平成22年 12月
文責 望月大和
甲府市和戸町688-5
TEL 055・237・9770

山梨日日新聞

2010年(平成22年)11月20日 土曜日

来春統合の富士川・琢美小
タグラグビーで
最後の交流授業

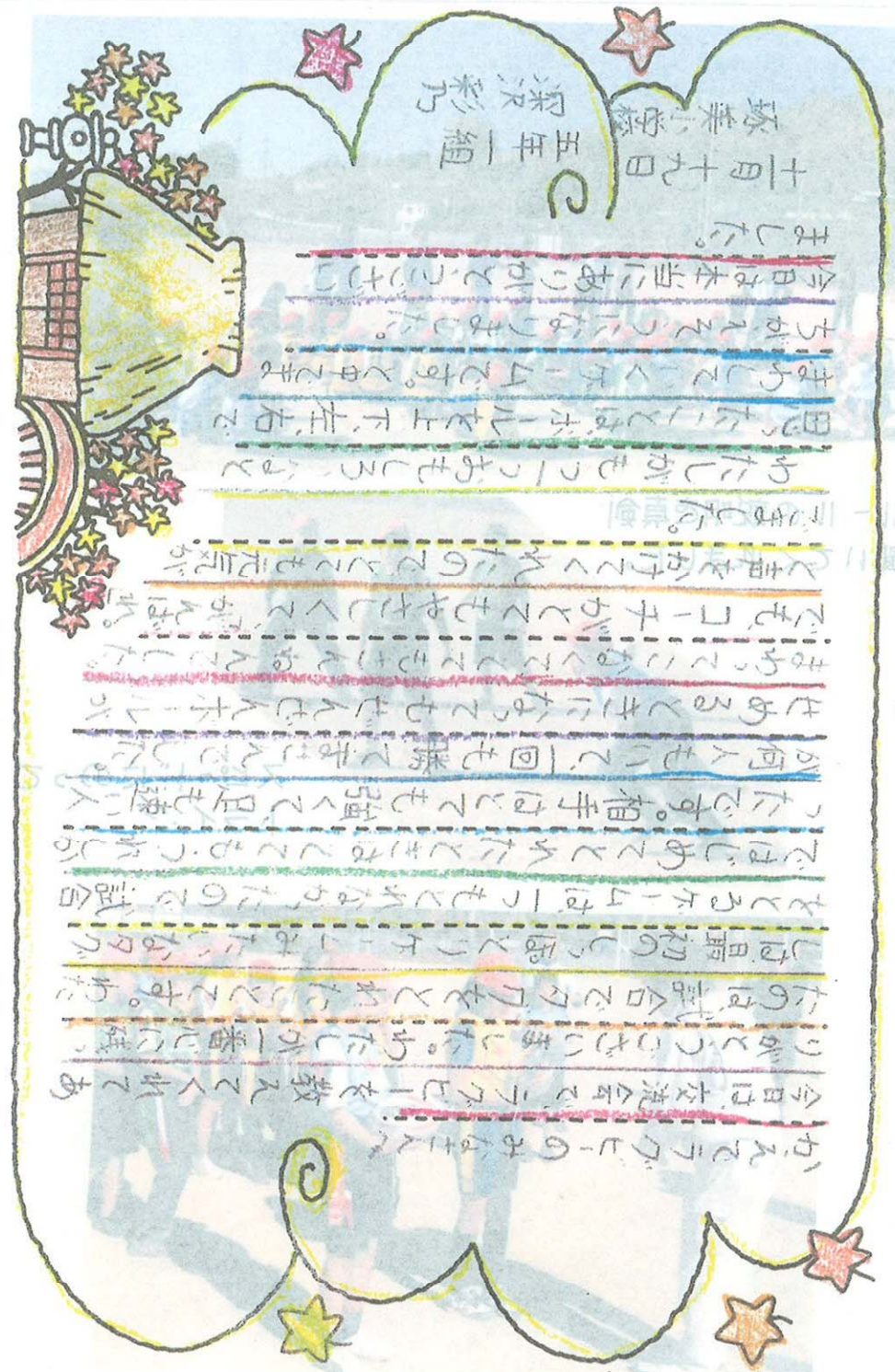
来年4月に統合する甲府市の富士川・琢美両小の最後の交流授業が19日、富士川小で開かれた。体育で5年生がタグラグビーを教わり、両校の混合チームで試合をした。写真。

かえでラグビースクール代表の望月大和さん(65)らコーチが富士川小を訪れ、両校の5年生44人が参加。ラグビーのボールの投げ方やルールを教わり、4チームに分かれて試合をした。終了後、甲府青年会議所から児童にラグビーボールとヘルメットが贈られた。交流授業は13回目で、これまで遠足や社会科見学を通じて学年ごとに交流を深めてきた。琢美小の稲男泰希君(11)は「来年も一緒に試合をしたい」。富士川小の村松るり子さん(11)は「琢美小の友達の名前を5人くらい覚えられた」と話していた。



11月19日(金) かえでのコーチ11名で交流授業に参加してきました。当日は小春日和で、ぬけるような青空。両校の児童44名 楽しそうに一生懸命にがんばってくれました。このような機会を、かえで、に与えていただき本当に両校の校長先生に感謝をしています。コーチの指導力もこの授業を通して一段と上がったと思っています。

ラグビーは瞬時の判断が求められる、ボールを出すタイミングは？ 自分のポジションは等、どれも教えられるものではない。「グラウンドは教えてもらう場所ではなく自分で学ぶところだと私は思う。子どもが自ら動くことで、つかんでいくことが基本になる、その基本を支えているのは面白さだ。面白いから真剣になる、工夫もある、子どもにとってスポーツも勉強も学びの軌道は同じなのだと思う。小さい子の場合は大人のラグビーのように一人ひとりのポジション(役割)を決めずに少人数で試合をさせる。ポジションがないから、ボールに子どもが群がる、身体接触の多いだんごラグビーがいい。押しくらり、押し合って泣く、おたいな。



琢美小の5年班全員が当日の感想を寄せてくれました。とてもいい書いてありました。5年班の皆さん、ありがとうございました。